



健康な未来のために 2011-12 日本
2011年度
複十字シール図案
デザイン:安野光雅画伯

健康の輪



健康日本21

編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会普及広報課内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

第15回結核予防関係 婦人団体中央講習会開催

平成23年2月15日から2日間、東京都墨田区の『第一ホテル両国』にて、第15回結核予防関係婦人団体中央講習会が開催されました。

今年も、公益財団法人結核予防会総裁 秋篠宮妃殿下よりお言葉を賜り、各種講演、班別討議と、濃密で充実した内容でした。全国各地からお集まりいただいた107名の参加者の皆さんは、ともに結核のこと、生活習慣病のことなどを学びました。(関連記事 4 ページ)



(開講式にてお言葉を述べられる秋篠宮妃殿下)

「第十五回結核予防関係婦人団体中央講習会」おことば

平成二十三年二月十五日(火)

本日、「第十五回結核予防関係婦人団体中央講習会」の開講式にあたり、日頃から熱心に結核予防活動を進めておられる皆さまにお会いできましたことを、大変うれしく思います。平成十三年より東京で開催されております結核予防関係婦人団体中央講習会は、この度、十五回目を迎えました。毎年、結核予防関係婦人団体の代表の方々が全国から集い、積極的に知識の習得に努め、活発な意見交換をしてこられました。そして、その成果を各地域に持ち帰り、夏から秋にかけて開催される「地区別講習会」を通して、結核予防の普及活動、複十字シール運動、広く人々の健康について理解を深め、それぞれの地域の婦人会がどのように関わっていくべきかを熱心に話し合われ、活動を進められてきたと伺っております。

婦人会が、それぞれの地域に応じたきめこまやかな視点をもちつつ、今までに果たしてこられた役割は誠に大きく、皆さまのたゆまぬご努力に対して、心より敬意を表します。また、結核予防会やストップ結核パートナーシップ日本などとともに、国内外の結核制圧のため、国際協力事業にも貢献されていることを非常に心強く思います。

結核をめぐる状況は、多くの関係者のご尽力とご努力により大きく改善されてきました。結核は主要な感染症として、今なお猛威をふるい続け、これらの国々における経済的な貧困の大きな原因の一つになっております。また、日本も、平成二十一年には、二万四千百七十名の新たな結核患者が発生するなど、依然として中蔓延国に位置しています。加えて結核患者の高齢化により合併症を有する患者が増加するなど、結核問題は益々複雑化し、質的な変化を見せています。このような状況の下で結核をなくすためには、多様な結核対策を着実に進めていく必要があります。

今回も、この中央講習会に、全国から百名以上の方々に参加されています。二日間にわたり、世界と日本の結核対策、予防ワクチンBCG、複十字シール運動、肺の生活習慣病COPD対策、女性の健康・更年期対策、子宮頸がん予防などについての講義や、班別討議が行われます。参加者のお一人お一人が、これらのテーマについて一層理解を深め、実り多い交流が行われますことを希望しております。

今年も、日本の提案によって実現したボランティア国際年から、十年目にあたり、日々、婦人会の皆様は結核予防などの活動に献身的に携わっておられることを深く感謝しつつ、これからも人々が健康で明るく暮らすことができるように力を尽くしていかれることを願い、開講式に寄せる言葉といたします。

一緒にがんばりましょう

3月11日、前代未聞の大震災が東北関東を襲いました。未曾有の災害となった震災、津波、そして原発の事故の放射能の恐怖の中で、衝撃的な大津波の瞬間や悲しみの被災者の表情、頑張っている子ども達の映像を見るにつけ、苛酷な三重苦の状況の中で被災地の皆様方が

冷静に行動しておられる様子を拝見し頭が下がります。そんな被災地の皆様方に向かって「がんばって」という言葉は他人事のように、なかなか言いにくいものだと感じています。それよりも私達も今、やるべきことをそれぞれの立場で精一杯やっていますので御一緒にがんばりましょう！と、そのようなメッセージを送りたいと思います。

巨大地震の猛威は一瞬にして人々の日常を奪い去りましたが、こ

の国難をどう乗り越えるのか、「支えあいの心」に復興の糸口を見出され、次の世紀に生きる人達のために、新しい「国土創成」の視点に立って、復興が一日も早く進められますよう願っています。

社団法人
全国結核予防婦人
団体連絡協議会
会長 中畔 都舎子



「結核予防会マニラ事務所」を訪問して

公益財団法人結核予防会
理事長 長田 功



5月9日から13日まで、結核予防会の海外協力事業を実見するため国際部の下内部長に同行し、フィリピンのマニラ市を訪問しました。結核予防会は現在、フィリピン・カンボジア・アフリカのザンビアの三カ国に海外事務所を開設して、海外協力事業を展開しています。フィリピンでは外務省の資金支援による「マニラ首都圏貧困地区における結核対策プロジェクト」の3カ年計画事業が今年満期を迎えるにあたり、その実態と成果を直接確認してみたいと考えていました。この事業は6月からはJICAの「草の根事業」としてさらに3年間継続されることに決まっていることから、現在が事業の節目であると認識されるわけです。その事業の内容は、マニラ市トンド地域（41万人）、ケソン市バヤタス地域（12万人）の貧困層を対象とする結核対策事業であります。

5月9日昼すぎにマニラ空港に降り立つと、曇りがちながら時々顔を出す太陽は天中直上にあり、その

強い日射しに南国に来たことを実感させられました。当日は事務所のメンバーの案内で、スペイン統治時代の旧跡イントラムロスを見学しましたが、規模の大きさと教会などに今に伝わる華麗さが当時を偲ばせてくれました。

2日目から本格的に事業を実見しました。まずカソリック教会内に付設された、市内のこの地区の貧困層結核対策の一つの重要な拠点となっているカノッサ診療所を訪ねました。

予防会はここでは、DOTSの指導、従事者の研修、および顕微鏡やX線装置、患者搬送用のリニアカーなどの機材を提供しており、現に研修を経た一人の婦人が採取されたばかりの喀痰からTB菌を顕微鏡内に発見して、私にも検鏡するよう促すのでした。ここでは患者OBが、ボランティアとしてコミュニティーのヘルス活動に活躍しているのが非常に印象的でありました。

こうした現場を見たあとに、大使館で占部敏直大使に謁見しました。数日前に赴任されたばかりで、多忙を極めておられるはずのところ、大使ご自身が直々に予防会事業活動報告を熱心に聴き入られていたのは有り難いことでした。マニラ、ケソン両市におけるDOTSの向上、従事者研修の強化、支援ネットワークの確立、アドボカシー活動などに成

果を上げ、その結果両地域におけるTB治療成功率の向上、TB患者の発掘数の増加がみられたことなどの成果の報告をして、今までの事業の支援のお礼と今後の協力をお願いしました。

WHO西太平洋地域事務局では、葛西部長と予防会から出向している大菅医師から当地におけるWHOの活動の説明をうけましたが、多剤耐性結核対策がメインの三大目標の一つとしてとりあげられていました。また、このWHO西太平洋地域に属する諸国（37カ国の多きにわたる）の保健衛生担当者幹部の多くが、結核予防会の国際研修コース出身者であるとのことで、我々も心強くも誇りに思いました。

JICAマニラ事務所では、松田所長以下スタッフと今後の「草の根パートナー事業」についての打合せや、活動内容の確認など熱心な話し合いが行われました。より大きな成果を上げるべく尽力したいものです。

マニラ、ケソン両市の衛生局にも表敬訪問しましたが、両市とも担当者は熱意に溢れていて、実務上の議論が大いに進みました。

医療機関としては、サンラザロ病院を参観しました。600床からなる感染症専門病院で、玄関に入って最初に目にした行列は、狂犬病予防のワクチン接種希望者であるとのこと

に、日常が狂犬病とも関わらなければならない地域であることを知らされました。結核病棟は3棟あり、うち1棟は多剤耐性結核患者用のものであり、現在6人が入院しているとのこと。一般の結核病棟は窓を大きく開けて換気を計ってお

り、昔の予防会の病棟を思い出して懐かしく感じました。

以上で私のマニラ実質3日間の日程は終わりましたが、マニラ事務所での国際部の外山さん、紺さん、ポプレチ医師をはじめとする現地スタッフの8人の皆さんの頑張りを実

際に見て、非常に心強く思いました。

結核予防会のシール募金がこうした形で有効に使われていることを実見して、シール募金運動でとりわけお世話になっている婦人会の皆様にはこの状況を是非報告しなければと思いました。

「東日本大震災 健康支援募金」 による結核予防会の支援活動 ご報告

公益財団法人結核予防会
事業部長 藤木 武義

去る3月11日に東日本の三陸沖を震源とする巨大地震が発生し、岩手県・宮城県・福島県の沿岸部を中心に破壊的な状況に見舞われました。この度の大地震により被災された方々には謹んでお見舞いを申し上げます。

地震と津波により多くの尊い命が失われ、今なお多くの人々が困難な生活を余儀なくされています。また、福島第一原子力発電所が大きな被害を受け、放射線漏れによる住民の健康への影響が心配されています。

公益財団法人結核予防会では、結核予防会岩手県支部（財団法人岩手県保健予防協会）・宮城県支部・福島県支部（財団法人福島県保健衛生協会）と連携をして岩手県・宮城県・福島県の被災地支援に取り組んでいます。

支援の取り組み状況につきまして、岩手県では、岩手県支部が宮古、釜石、陸前高田で保健支援を行ってきましたが、釜石と陸前高田は現地の体制が整備されていることもあり、結核予防会の活動対象としては、支部が行ってきた保健支援活動を引き継ぎ宮古地区の山田町とし、4月より避難所に休んでいる方々の健康状況の把握と医療ニーズのチェック、自宅避難者の訪問と健康調査を行っています。



支援物資配布の様子



DRによる健康相談

また、医療支援につきましては、岩手県大船渡病院に4月4日より呼吸器科医師を、5月2日から循環器科医師を追加派遣しております。

宮城県では、亘理町の被災された方々の健康支援のため、宮城県支部より看護師・運転手を、本部より医師を派遣しておりましたが、付近の病院診療所が診療を開始したこともあり、4月末で支援を終え、震災直後より支部が保健支援をしていた気仙沼小学校のほか近隣の小規模避難所を、5月より本部・支部が協

力して健康支援を行っています。

福島県におきましては、県より要請があり次第派遣をする予定にしております。

結核に関しては、今後適当な時期に、結核健診の実施も検討しています。

被災地の一日も早い復興を心から願い、被災された方々の支援活動に結核予防会本部・支部職員が一丸となって取り組んでいく所存です。婦人会の皆様のご協力に感謝申し上げますとともにこれからも、ご支援の程よろしくお願いいたします。

第15回結核予防関係婦人団体中央講習会

平成23年2月15日～16日 第一ホテル両国（東京都墨田区）

毎年、この時期に恒例の中央講習会が、右頁のスケジュールで開催されました。



講義を熱心に受講されました。



藤井氏による一人一人に丁寧な講演。



班別討議では積極的な発言が数多く出ました。



討議の結果をグループ毎に発表されました。



保谷和太鼓会による和太鼓の演奏をご堪能いただきました。



終講式では素晴らしい謝辞を述べて下さいました。

中央講習会スケジュール

【2月15日（火）】

開講式	13:10～13:40
・主催者挨拶 結核予防婦人会 会長	中畔 都舎子
・主催者挨拶 結核予防会 理事長	長田 功
・総裁お言葉 秋篠宮妃殿下	
・来賓挨拶 厚生労働省健康局長	外山 千也
「健康の歌」斉唱	全員
写真撮影	13:40～14:05
講演1	14:15～15:10
『「結核」→世界の結核・日本の現状』	
公益財団法人結核予防会結核研究所 所長	石川 信克
講演2	15:20～15:40
『結核の予防ワクチンBCGについて』	
公益財団法人結核予防会結核研究所 副所長	加藤 誠也
講演3	15:40～16:40
『子宮頸がんは予防できる』	
自治医科大学産婦人科学講座 教授	鈴木 光明
講演4	16:40～17:20
肺の生活習慣病『知っていますか？ COPDについて→タバコ病』	
COPD共同研究委員会 研究員	加藤 久幸
肺年齢→COPD DVD (TBS)	17:20～17:30
講演5	17:30～18:05
『～何が何でも元気が一番～』	
東洋医学情報センター・NPO法人いたち副理事長	藤井 弘泰

【2月16日（水）】

講演6	8:30～9:05
『結核予防婦人会について』・『複十字シール運動』	
社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会理事・事務局長	山下 武子
講演7	9:15～10:25
『更年期のうつ（豆知識）』	
小山嵩夫クリニック 院長	小山 嵩夫
班別討議	10:35～12:05
終講式	12:05～12:25

簡単にできる

“カラフル
きんぴら”

材料（4人分）

- ・ピーマン 1袋
- ・にんじん 1／3本
- ・ちりめんじゃこ 大さじ3
- ・サラダ油 小さじ1
- ・しょうゆ 小さじ1／2

作り方

- ①ピーマンは細切り、にんじんは斜め薄切りにしてから千切りにする。
- ②フライパンに油を熱し、にんじん・ちりめんじゃこを炒める。
ピーマンを加えて色よくさっと炒め、仕上げにしょうゆを回し入れる。

定時総会・新役員紹介

この度、東日本大震災により、被災にあわれた地域の方々に心よりお見舞い申し上げます。

そこで、震災により「第62回結核予防全国大会（福島県）」が中止になりましたことにより、書面審議による理事会と総会を行いました。

【新役員(敬称略)】（任期 平成23年3月27日～平成25年3月26日）

会 長	理 事		藤本 貴子（岡山県）	新任
中畔都舎子（京都府）	齋藤 芳子（北海道）	再任	寺尾 敦子（高知県）	新任
理事・会長ともに再任	向井 麗子（青森県）	再任	大城 節子（沖縄県）	新任
副会長	三浦 絢子（宮城県）	再任	山下 武子（本 部）	再任
米窪千加代（長野県）	松尾美智代（神奈川県）	新任	監 事	
理事・副会長ともに再任	岩田 繁子（富山県）	再任	土屋 貞代（静岡県）	新任
木下 幸子（福岡県）	高田千恵子（石川県）	新任	上ノ山幸子（大阪府）	新任
理事・副会長ともに再任	中野 璋代（滋賀県）	再任		

「全国結核予防婦人団体連絡協議会理事・監事就任に寄せて」

神奈川県地域婦人団体連絡協議会
会長 松尾 美智代



公益財団法人結核予防会総裁秋篠宮妃殿下を拝しての私たちの活動は、常に意識を高く持ち活動を行うことが大切なことと思います。

全国大会、中央講習会等にはご臨席をいただき貴重なおことばを拝聴できることはこの上ない幸せであり、活動の重要性を深く感じ正しい知識の普及啓発に努めたいと思います。

この度、千葉県大塚前理事の後を受け、理事としての重責をお引き受け致しました。浅学非才なため会員皆様のご支援をよろしくお願い致します。かつて国民病と言われた結核も医学の進歩、皆様の結核予防活動等により、減少しつつあるといわれている一方静かに蔓延している状況もあると聞きます。高齢者の再発や若年層の罹患率も増加していると言われております。この様な実態を聞く度に私達は結核根絶のため、複十字シール募金活動や正しい意識啓発を行い地域活動の輪を広げ先づ家族の健康を重視し、明るい社

会実現のため組織を充実し普及活動を推進したいと思います。よろしくご協力お願い致します。

石川県結核予防婦人会
会長 高田 千恵子



この度、東海・北陸ブロックの新役員となりました。先輩の方々と協力し合って活動していきたいと考えています。

私は、「自分の健康は自分で作る。」という言葉が大好きです。「自分の健康は自分で守る。」という受身ではないのです。「作る」という自らの強い意志と主体性を感じるからです。

「結核は過去の病気ではない。今もなお主要な感染症である。」ということ、一人でも多くの皆さんにお伝えし、理解を求めていくことが何よりも大切であると思います。

それには、「中央講習会」「地区別幹部研修会」などの各種の研修会に同じ人が参加するのではなくて、交代でより多くの人に参加してもらって活動する人の輪がそれぞれの地域で、さらに広がることを願っています。

また、知事さんをはじめ、組織のトップの方々にもご協力をいただく活動も続けていきたいと思っています。

岡山県愛育委員連合会
会長 藤本 貴子



結核は決して過去の病気ではなく、現代においても、毎年新規の患者が2万人に及ぶなど、依然としてわが国の

主要な感染症となっております。

今こそ結核根絶を目指して、感染者が一人もいなくなるまで早期発見・早期治療、そしてこれらによる感染の拡大防止の大切さを地域で伝えていかなければならない時代だと思っております。

このようなときに理事に就任させていただくこととなり、改めて責任の重さを感じています。

岡山県愛育委員連合会は、昭和58年に全国結核予防婦人団体連絡協議会の一員に加わらせていただいた以来、複十字シール運動を中心とした結核予防活動に取り組むとともに、地域に「自分の健康は自分で作る」意識を広めるなど、健康づくり

に地道に取り組んでまいりました。

今後も地域で行ってきた活動を礎に、結核のない地域、結核のない日本を目指して全国の皆様と更にしっかき手を結んで取り組ませていただきたいと存じますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

高知県健康づくり婦人会連合会

会長 寺尾 敦子



この度、理事をさせて頂くことになりました、高知県健康づくり婦人会連合会の寺尾

と申します。会長

様他役員の皆様、そして結核予防会の方々の御指導を賜りながら務めて参りたいと思っておりますので、どうか宜しくお願ひ申し上げます。

高知県では発足以来、結核撲滅を願ひ「健康づくりは幸せづくり」を合言葉にシール募金活動を大きな柱に掲げ、「健康募金」として活動に励んで参りました。検診車には支部の御好意でシール坊やのロゴを貼らせて頂いておりますので、受診者には皆様のシールの益金がこの様に検診車になっているのですよと力を込めて説明して参りました。

一般の方や会員に一層の周知を図る為、県や管内のリーダー研修会では生活習慣病予防や複十字シール募金について、手作りの寸劇を行っております。募金活動の模様をリアルに取りあげ土佐弁丸出しで演じ、お客様から大好評を頂いております。買物袋にいつもシールを持ち歩き、知人を見ると協力を呼びかけている会員は、「あんたに会うと金をくれ、金をくればかり言う、恐いちゃ」と言われるとのセリフもありました。最後のフィナーレではその管内会長作詞の「複十字シールってなあに」を全員で歌ってくれましたが、とても感動して涙が出ました。後日私は別の管内での祝辞でその模様を紹介し、歌を披露致しました。私も祝辞で歌を歌ったのは初めてでございます。この様な熱心な会

員のおかげで、婦人会扱の募金が二億百万円を突破致しました。この事に誇りを持ち今後も会員一同結核撲滅を目指し、活動に邁進したいと思っております。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

沖縄県結核予防婦人団体連絡協議会

会長 大城 節子



「複十字情報から改めて知る・知らせる」「ストップ結核パートナーシップ日本」

世界では途上国を中心に年間920万以上の人々が新たに結核を発病しているとの事です。結核予防会のフィリピン、カンボジア、ザンビアの海外事務所では、日本人と現地スタッフが協力して一人でも多くの方が結核の適正な診断治療を見受けられるよう、草の根レベルの活動に取り組んでいる事、私たちの活動は複十字シール募金を通して日本の皆様に支えられている事、カンボジアでは、この10年で結核対策が強化され多数の人々が結核の治療を受け仕事に復帰し、家族を支えるようになった等々の喜びと感謝の気持ちが伝わってきています。

私共日本のシール運動が世界貢献につながっている事に対し、新役員と云う役割に責任を感じます。と同時に更なるシール運動に個人は勿論、結核予防婦人会の組織として頑張らなければと決意します。人々の幸せの為に。

静岡県結核予防婦人会

会長 土屋 貞代



このたび、(社)全国結核予防婦人団体連絡協議会の監事を務めさせていただきましたことになりました。至らぬ点が多々あるとは思いますが、今後の活動が適正に行われるよう監査していきたいと身のひきしまる思いです。

さて、静岡県結核予防婦人会の会長を務めるようになって5年になりますが、現在、静岡県では、年々市町の合併、会員の高齢化や減少などその他世情を受け、以前に比べると組織の規模・活動が縮小しております。これは、全国的にもあてはまることで、就労女性の増加、地域共同体意識の低下、価値観や福祉ニーズの多様化、組織の弱体化により、これまでと同じような活動形態では協議会の存続自体が困難になることと思います。

協議会のさらなる発展のために、監事という立場からサポートさせていただき、微力ながら全力を尽くす所存でございますので、皆様のご指導、ご鞭撻、そしてご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

社団法人大阪エイフボランティアネットワーク

会長 上ノ山 幸子



この度岡山県の藤本会長の後任として、監事の大役を仰せつかりました上ノ山でございます。どうぞよろしくお願ひ致します。

私は数年前まで、正直申し上げますと、自身の団体の予算執行については、全て「事務局」任せにしていたのが実情でございます。

しかしながら、大阪府からの補助金や委託費が全額カットになり、大幅な単年度赤字を計上するようになりましたので、自ずと決算に関心を持たずにはおれなくなったのが、これもまた事実でございます。

決算書を精査することは、実施事業の総点検(総括)ができることともに、最小の費用で最大の効果を上げているか否か等を評価できる最もよい機会であると考えます。

今後とも日常活動においては、結核予防運動に全力に取り組むとともに、微力ではございますが、監事の職責を果たすべく精一杯努力したく存じますので、皆様方のお力添えをよろしくお願ひ申し上げます。

「複十字シールってなあに」

「複十字シールってなあに」

一、わたしは かわいい シールです

生まれは 遠い デンマーク

結核・肺がん 撲滅を

世界のみならず 手をつなぎ

国際協力いたします

シール シール シール

シール かわいい複十字

二、わたしは みんなの複十字

命を 守る 複十字

平和と 希望の 合印

みんなで生きる 合印

世界共通の印です

シール シール シール

シール みんなの複十字

三、わたしは 小さな シールです

みんなの力を 寄せ合った

検診カーは 今日も行く

いきいき 幸せ 夢乗せて

今日も走るよ 西東

シール シール シール

シール 大好きな複十字



作詞

四万十町婦人会長
谷崎 直子

メロディーは

「りんごの一人ごと」です

カンボジア結核対策スタディツアー2011 参加者募集

平成6年から始まり、毎年行われている、『結核対策スタディツアー』も、今年で第18回を迎えました。

詳細につきましては、まもなく各支部・各婦人会宛に募集案内を郵送いたしますので、是非ご参照の上、お申し込みください。



全国結核予防婦人団体連絡協議会 平成23年度収支予算書 (平成23年1月1日～12月31日)

1. 収入

(単位：円)

科目	23年度予算額(A)	22年度予算額(B)	対比増△減(A-B)	備考
会費収入	5,740,000	5,190,000	550,000	
加盟婦人団体会費収入	3,840,000	3,840,000	0	@80,000×48団体=3,840,000
賛助金収入	1,900,000	1,350,000	550,000	
委託金収入	0	0	0	
補助金収入	3,500,000	3,500,000	0	結核予防会 3,500,000
雑収入	76,461	21,636	54,825	預金利息、他
借入金収入	0	0	0	
預金取崩収入	0	0	0	
過年度損益修正益	0	360,000	△360,000	
前期繰越収支差額	4,779,389	20,856,336	△16,076,947	
合計	14,095,850	29,927,972	△15,832,122	

2. 支出

科目	23年度予算額(A)	22年度予算額(B)	対比増△減(A-B)	備考
給与	1,200,000	1,200,000	0	
職員給与	1,200,000	1,200,000	0	月額100,000×12カ月
経費	2,902,984	1,795,880	1,107,104	
通信運搬費	394,245	337,349	56,896	郵送料
旅費交通費	1,729,752	857,225	872,527	23年度理事会旅費・監査旅費・地区別研修会講師旅費・中央講習会会長旅費
会議費	110,560	292,275	△181,715	理事会雑費・監査雑費
消耗品費	85,781	16,287	69,494	事務消耗品
管理費	70,584	70,584	0	光熱水道料等 @5,882×12カ月
会計士顧問料	210,000	0	210,000	会計士顧問料
支払利息	0	0	0	
雑費	302,062	222,160	79,902	交際費(香典、弔電)・振込手数料・健康日本21会費
事業費	6,548,627	8,767,553	△2,218,926	
研修会費	2,703,200	2,685,001	18,199	地区別研修会負担金・中央講習会
大会費	222,000	200,000	22,000	負担金 会長旅費・宿泊
講師派遣費	0	0	0	
思想普及啓蒙費	1,689,427	3,678,006	△1,988,579	健康の輪(印刷・発送・原稿料・編集会議)・普及啓蒙費(広報資材作成等)
すこやかに制作積立	300,000	0	300,000	研修のしおり(すこやかに)印刷製本費(4年に一度作成)
過年度損益修正損	0	2,204,546	△2,204,546	前年度事業積立・未払金未計上分
国際協力費	84,000	0	84,000	カンボジアへ寄付(1,000\$)
協賛費	0	0	0	
予備費	1,550,000	0	1,550,000	災害義援金準備金
基金繰入金	0	0	0	
STBJ事業積立	500,000	1,000,000	△500,000	
創立40周年事業積立	1,000,000	1,000,000	0	
次期繰越収支差額	1,944,239	16,164,539	△14,220,300	
合計	14,095,850	29,927,972	△15,832,122	

平成23年度事業計画 (平成23年1月1日～12月31日)

2月15日～16日	中央講習会／第一ホテル両国(実施済)
2月22日	会計監査／結核予防会(実施済)
3月15日	教育広報誌『健康の輪101号』発行(実施済)
3月22日	第1回理事会の開催／福島県(中止)
3月23日～24日	第62回結核予防全国大会の後援と定時総会、第2回理事会の開催／福島県(中止)書面審議実施済
7月15日	教育広報誌『健康の輪102号』発行
7月15日～16日	北海道地区幹部研修会(家族の健康を守る講習会)実施
8月1日	全国一斉複十字シール運動開始厚生労働大臣ならびに都道府県知事表敬訪問 複十字シール運動の実施にあたり後援団体として協力
9月24日～30日	結核予防週間 ・主催団体として結核への関心を高める各種の普及啓蒙活動を実施 ・全国一斉複十字シール運動キャンペーン
10月7日	関東甲信越地区幹部研修会(山梨県)
11月7日～8日	中国四国地区幹部研修会(山口県)
11月10日～11日	東北地区幹部研修会(秋田県)
11月10日～11日	九州地区幹部研修会(鹿児島県)
11月下旬	カンボジア結核対策スタディツアーへの会員の参加(予定) カンボジア結核対策プロジェクトへの資金援助
日程未定	第3回理事会の開催／結核予防会(予定)

今年の「複十字シール運動」について

結核予防婦人会の皆さまには、結核予防週間における街頭キャンペーンなど様々な場を通じてご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、今年の複十字シールは、結核予防会が1952年に最初のシールを作ってから60年目となります。

モチーフは、「外国のあそび」です。デザインは、もちろん安野光雅氏です。シールの一枚は、人形劇のパペットです。よく見ると、うさぎのパペットには、「卯」と入れてあります。シールひとつひとつに繊細な仕掛けがあり、シールの世界が広がります。大型シールの中央の一枚は、メイン・シールにもなっており、シール4枚分を大きな1枚のシールとしました。60周年記念のサプライズとなります。

他のシールは、子供が縄跳びをしたり、フラフープ、バトミントン、

木馬、けん玉などに興じる姿が描かれています。また、衣装のチェック柄、個性的な髪型にも文化、気候風土の違いが忍ばれます。シールも完成し間もなく皆様のお手元に届きます。

ところで、3月11日に東日本大震災があり公衆衛生の向上に奨することを旨とする公益財団法人として本会は、震災直後「震災対策委員会」を立ち上げ、募金活動を行い、支部の協力を得て3月27日から保健医療支援活動を岩手県、宮城県で行っております。被災地の一日も早い復興を心から願っております。今後、結核の早期発見のための健診は、秋頃に想定されております。被災地の支部、婦人会では、今年のシール運動、結核予防週間の際にそのあたりも考慮に入れて普及啓発活動をお願いしたいと考えております。複十字シール運動は、募金活動だけではなく、結核予防の普及啓発が大きな目的のひとつです。

尚、平成22年度複十字シール募

金結果につきましては、次号に掲載いたします。

全国婦人会別結果について

婦人会県別に募金額上位5県を見ますと、①静岡県約1,407万円・②秋田県約1,128万円・③熊本県約624万円・④沖縄県約487万円・⑤高知県約436万円となっております。

婦人会活動による募金は、複十字シール募金全体の約30%を占めております。

全国結核予防婦人団体連絡協議会は、結核予防の普及啓発活動において大きな役割を果たしてきたことは、いまさら言うまでもありません。

一般の方々への結核に対する意識が低くなっているときだからこそ、私たちが協力して結核予防の普及啓発を行っていかねばなりません。

結核の罹患率において、低まん延国になるにはあと10年ぐらい2020年と言われております。また、結核のない世界の実現は、2050年頃でも難しいと言われており、複十字シール運動を毎年着実にを行い、且つ継続していくことが大切です。

今後とも、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



イラスト・カット募集

平成23年11月号（健康の輪No.103）に掲載するイラスト・カットを募集致します。

花・動物・その他、何でも結構です。

締切は、平成23年9月22日（木） 当会必着です。

全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局宛
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12
TEL：03-3292-9288

